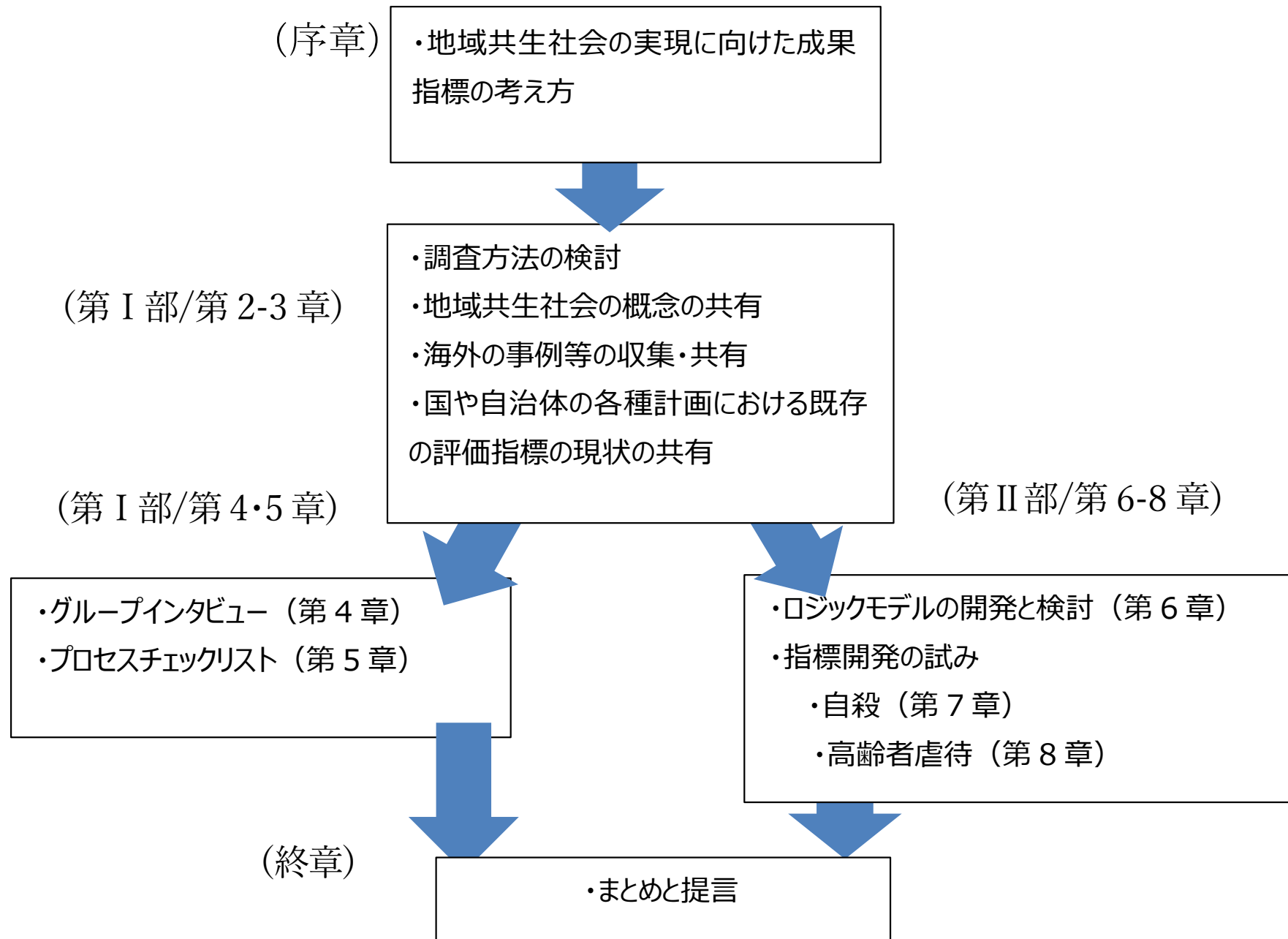
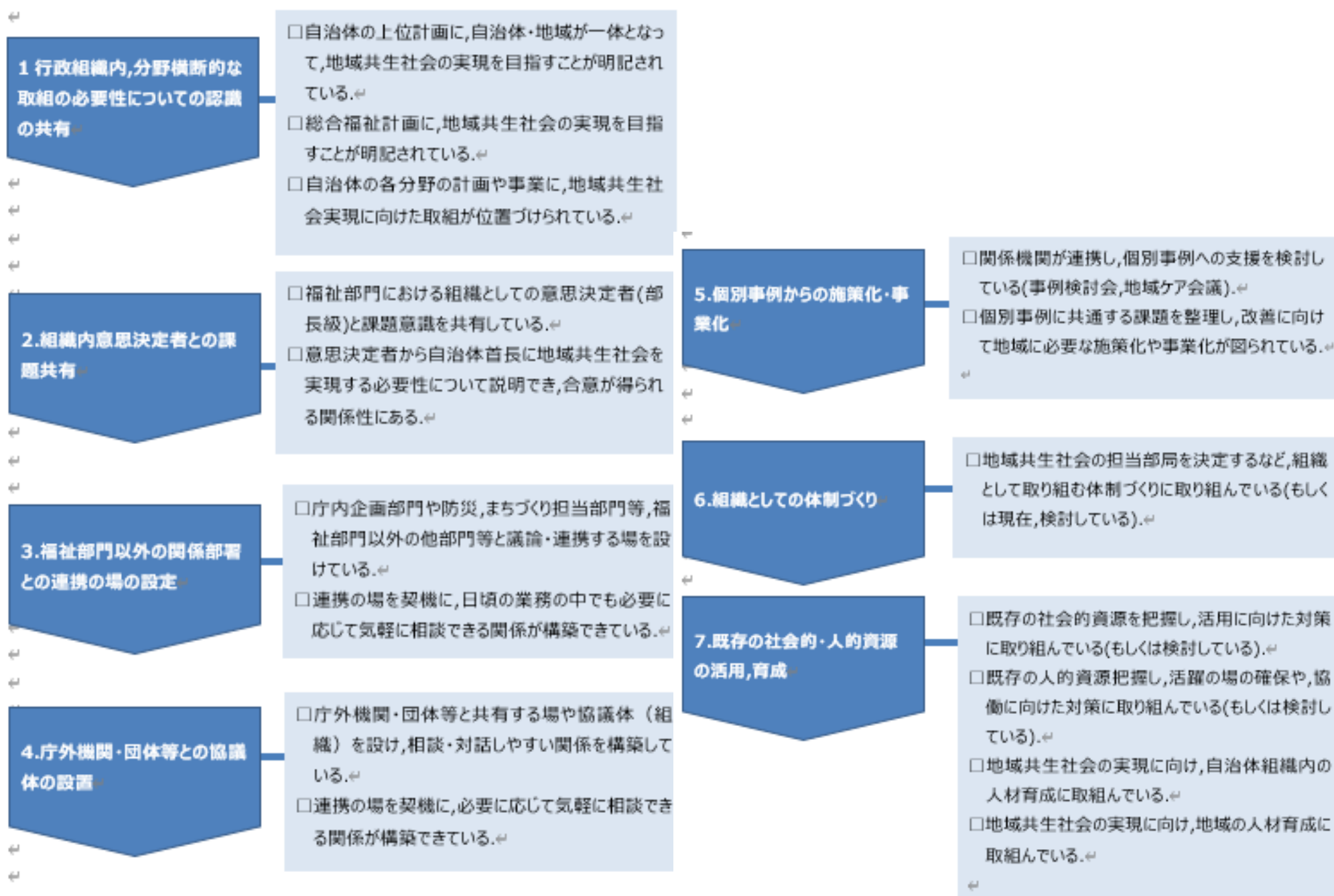


# 図1 検討フローと本報告書の構成

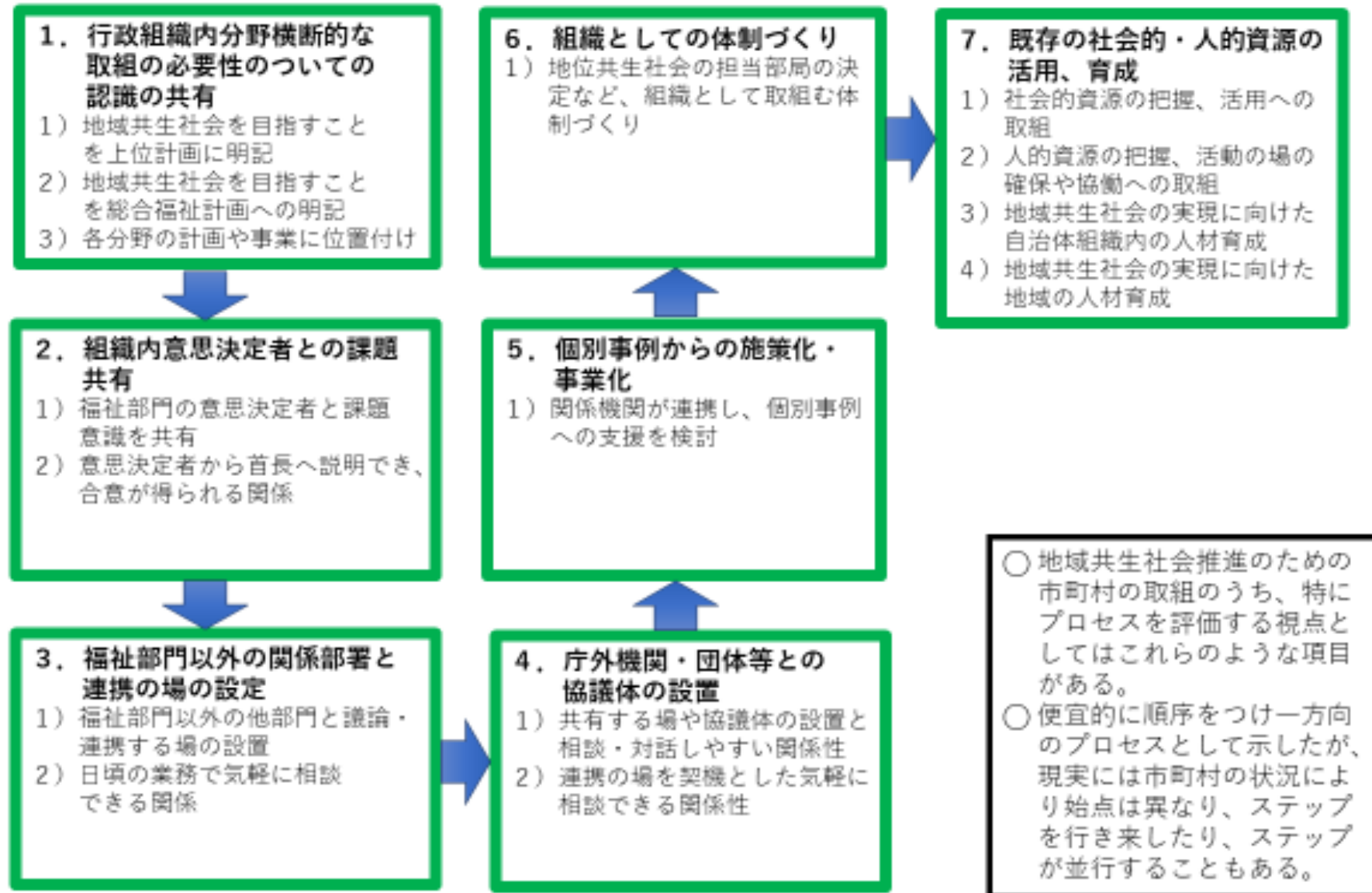


## 図2 包括支援事業のための7つのプロセスチェックリスト



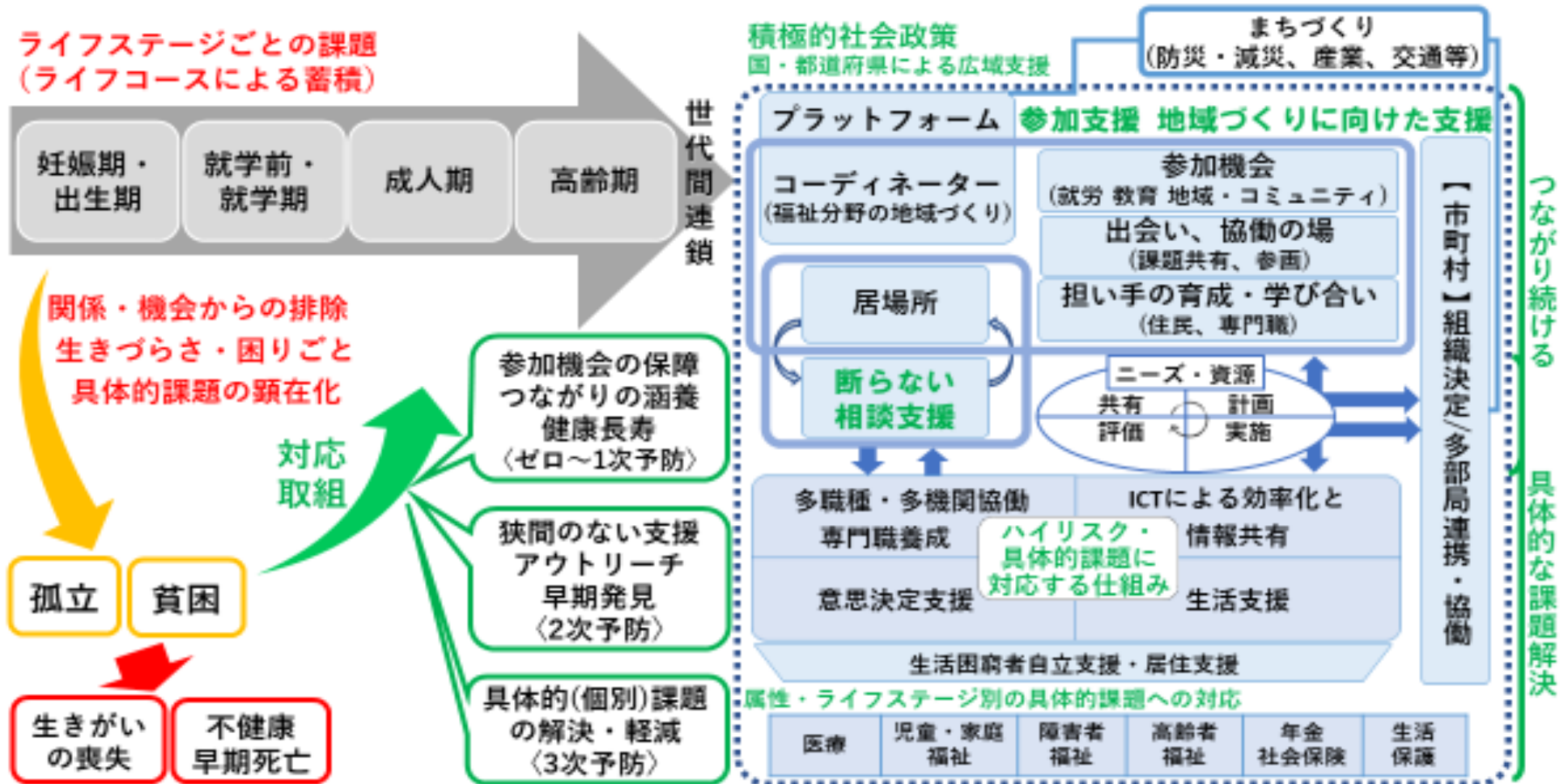
# 図3 包括支援事業のための7つのプロセスチェックリスト 評価の視点

## 市町村の取組のプロセス評価の視点



# 図4 ロジックモデル（全体図）

## 1. ライフステージごとの課題と対応・取組 <全体図>

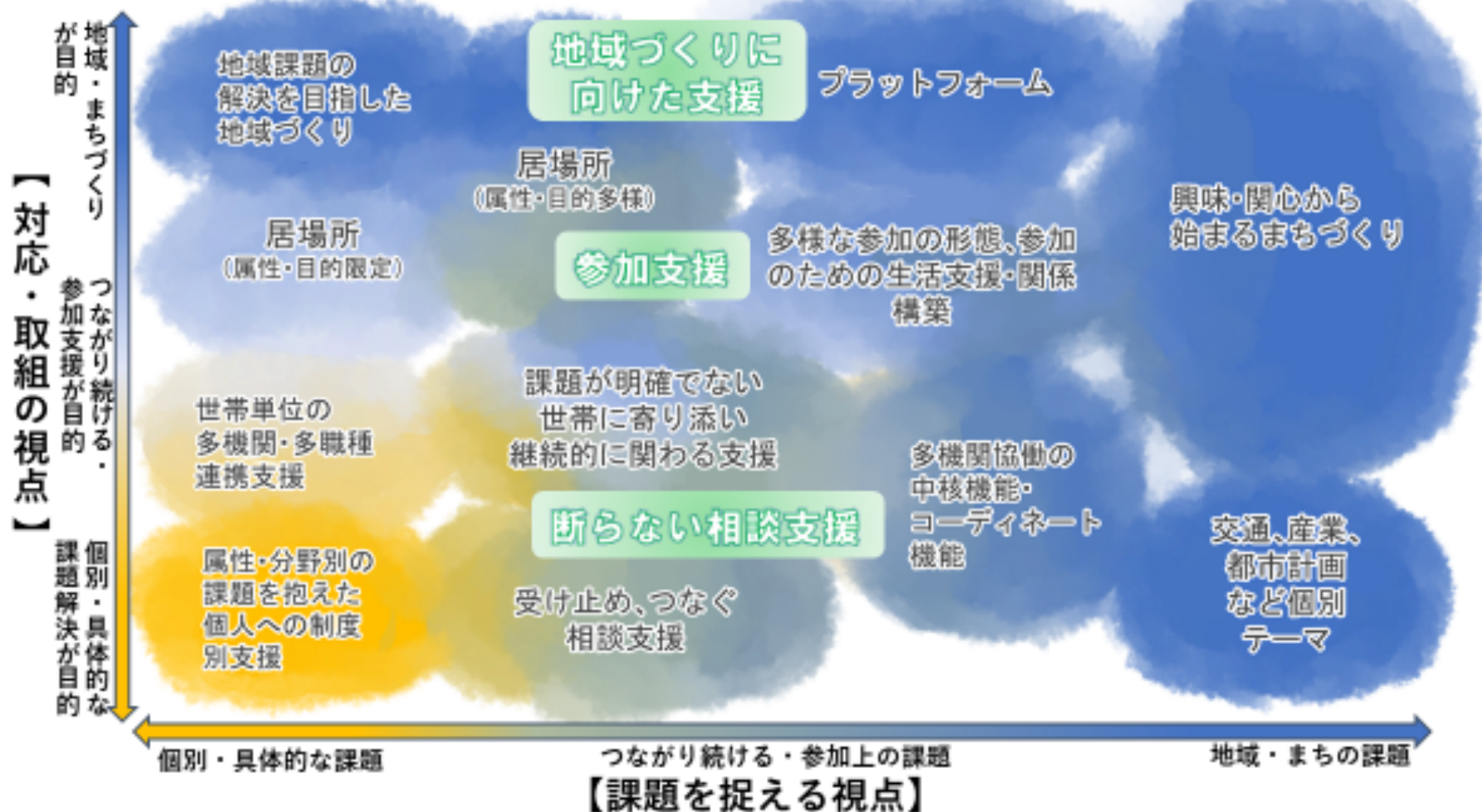


ライフステージを通じて人は様々な課題に直面する。個人や世帯のニーズの複雑化・複合化により、これまでの縦割りの制度・支援では課題に対応しきれなくなっている。また、一旦課題が重篤化してしまうと、生活状況の改善・安定は困難になりがちである。属性によらないライフステージを縦断した包括的・継続的な支援を可能とする体制の構築と、生きがい・健康増進に寄与する多様な参加機会の保障された、つながりの豊かな地域・社会が求められる。



# 図5 課題の捉え方と対応・取り組みの視点図

## 2. 課題の捉え方と対応・取組の視点<主要概念・用語の関係>



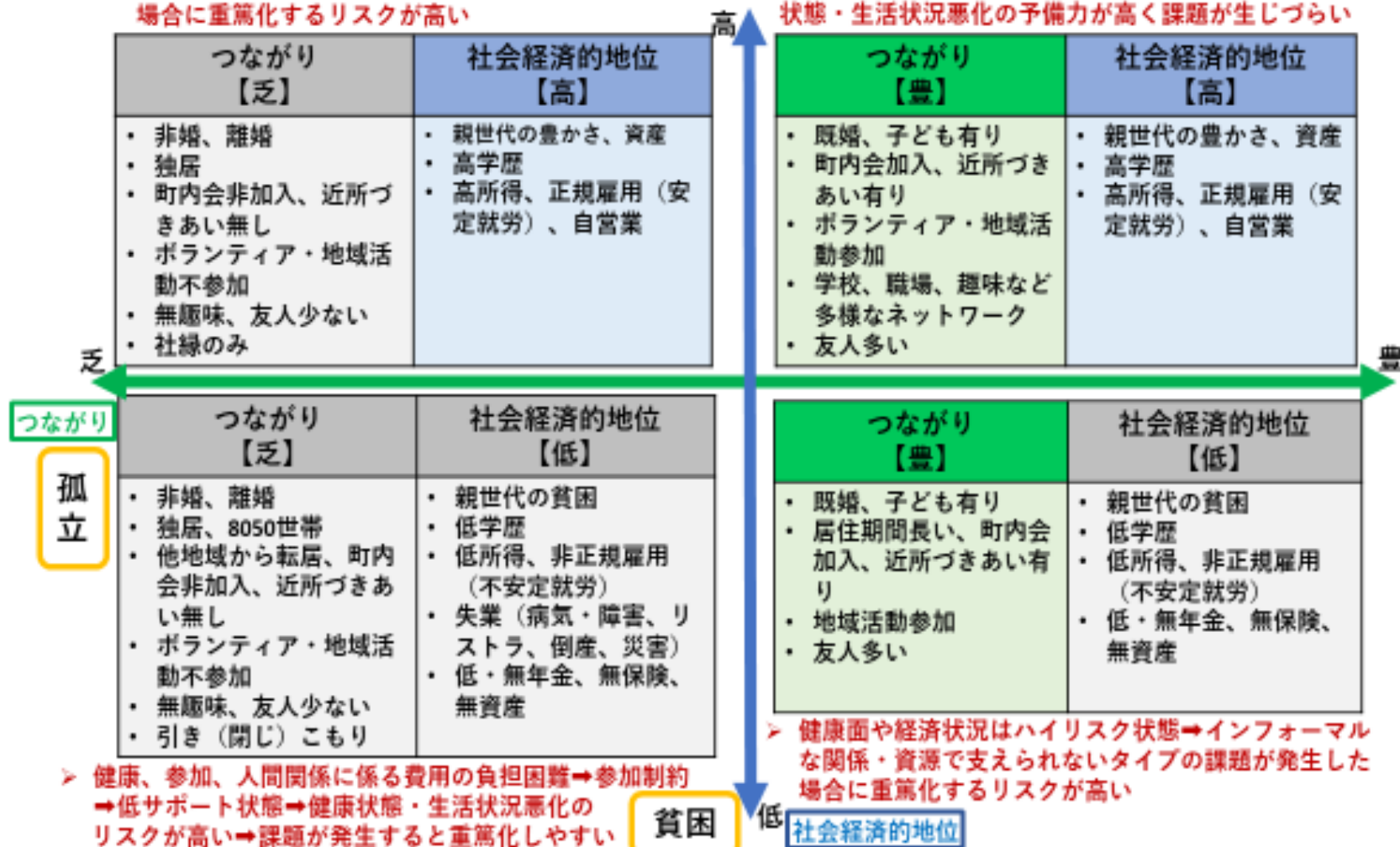
本ロジックモデルと関わる地域共生社会のキーワードを①課題を捉える視点、②対応・取組の視点という2軸で整理した。縦軸の下方および横軸の左方は「個」に着目した次元で、縦軸の上方あるいは横軸の右方に行くほど「世帯」「(特定の)集団」「地域・まち」のようにより大きな単位に着目した視点となる。

# 図6 孤立と貧困の状態像の例

## 孤立と貧困の状態像の例 – つながりと社会経済的地位による4類型

➢ 低サポート状態→経済状況が悪化し課題が発生した場合に重篤化するリスクが高い

➢ 高学歴・高所得→参加機会多様→高サポート状態→健康状態・生活状況悪化の予備力が高く課題が生じづらい



経済政策で社会の総和としては豊かになっても、つながりの乏しい参加の制約された社会では、格差は拡大し一部の人に不健康や不利が集積しかねない。つながりの豊かな、社会経済的地位によらず参加が保障される社会が望まれる。